

大型イカ釣り漁業の衰退がもたらしたイカ加工業の構造変化と消費者への影響

背景と目的

大型イカ釣り漁業はかつてイカ加工原料の主要な供給元であったが、近年では経営収支の悪化により衰退傾向が著しい。このことがイカ加工業にどのような変化をもたらし、さらにその変化が消費者にいかなる影響を与えているかについて、実態調査に基づき明らかにする。

成果

1. 大型イカ釣り漁業によるイカ生産(図1の「その他」に含まれ、アカイカやアルゼンチンイカ等が主体)は、1970年代以降、スルメイカの減少を補い、国内イカ生産量を安定化させる役割を果たしてきた。
2. しかし、大型イカ釣り漁業の衰退により、国内イカ生産量は不安定さを増し、2000年以降減少傾向にある。その結果、近年国内のイカ加工業者が利用可能な原料イカは、スルメイカとアメリカオオアカイカだけとなり、さらに前者の価格高騰により利用可能な原料イカはさらに減少している。
3. 国内イカ生産量の減少がイカ加工業にもたらした影響は、業種(イカ加工品の種類)や企業の規模によって異なる(表1)。中小イカ加工業者は、安定供給条件に乏しいが品質的に優れたものが多い国産原料を積極的に利用することで、国産原料を敬遠しがちな大手イカ加工業者との差別化を図ってきた。しかし、国産イカ生産量の減少により、近年は販売シェアを縮小させている。
4. 大手イカ加工業者は、安定供給面で国産原料より優れた輸入原料を多く利用することから、消費者は国産原料から作られた良質なイカ加工品を選択することが難しくなりつつある。

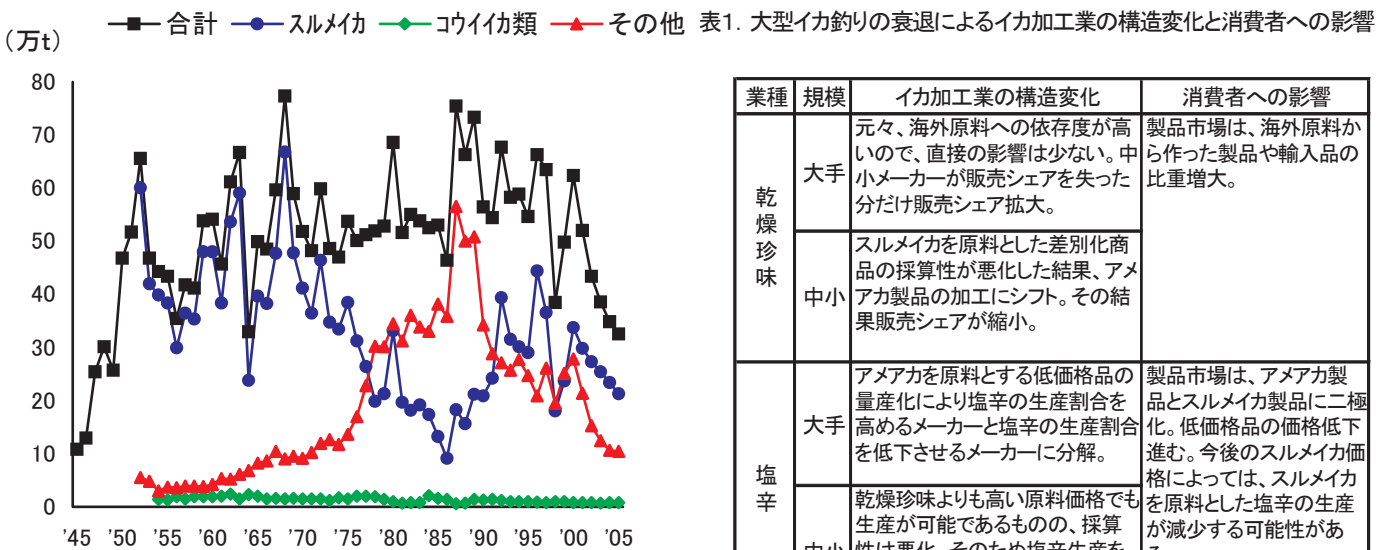


図1. イカの国内生産動向 (資料:「漁業・養殖業生産統計年報」)

業種	規模	イカ加工業の構造変化	消費者への影響
乾燥珍味	大手	元々、海外原料への依存度が高いため、直接の影響は少ない。中小メーカーが販売シェアを失った分だけ販売シェア拡大。	製品市場は、海外原料から作った製品や輸入品の比重増大。
	中小	スルメイカを原料とした差別化商品の採算性が悪化した結果、アメリカ製品の加工にシフト。その結果販売シェアが縮小。	
塩辛	大手	アメリカを原料とする低価格品の量産化により塩辛の生産割合を高めるメーカーと塩辛の生産割合を低下させるメーカーに分解。	製品市場は、アメリカ製品とスルメイカ製品に二極化。低価格品の価格低下進む。今後のスルメイカ価格によっては、スルメイカを原料とした塩辛の生産が減少する可能性がある。
	中小	乾燥珍味よりも高い原料価格でも生産が可能であるものの、採算性は悪化。そのため塩辛生産を縮小するメーカーが多い。	

資料:実態調査による

波及効果

1. 水産物利用におけるフードシステムとしての視点(水産物流通において、加工部門を核とし、生産から消費までをつないで検討する見方)の有効性の検証
2. 国産原料の安定的供給のための政策的根拠の提示

問い合わせ先：水産経済部 流通システム研究室（三木）